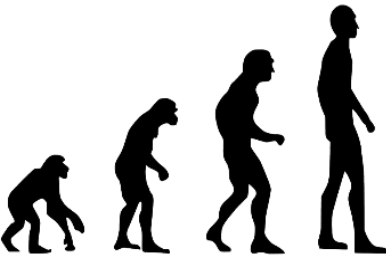


クラシック+ポピュラーの西洋音楽史

@jun_music_study

2023.10.16. 改訂

先史時代

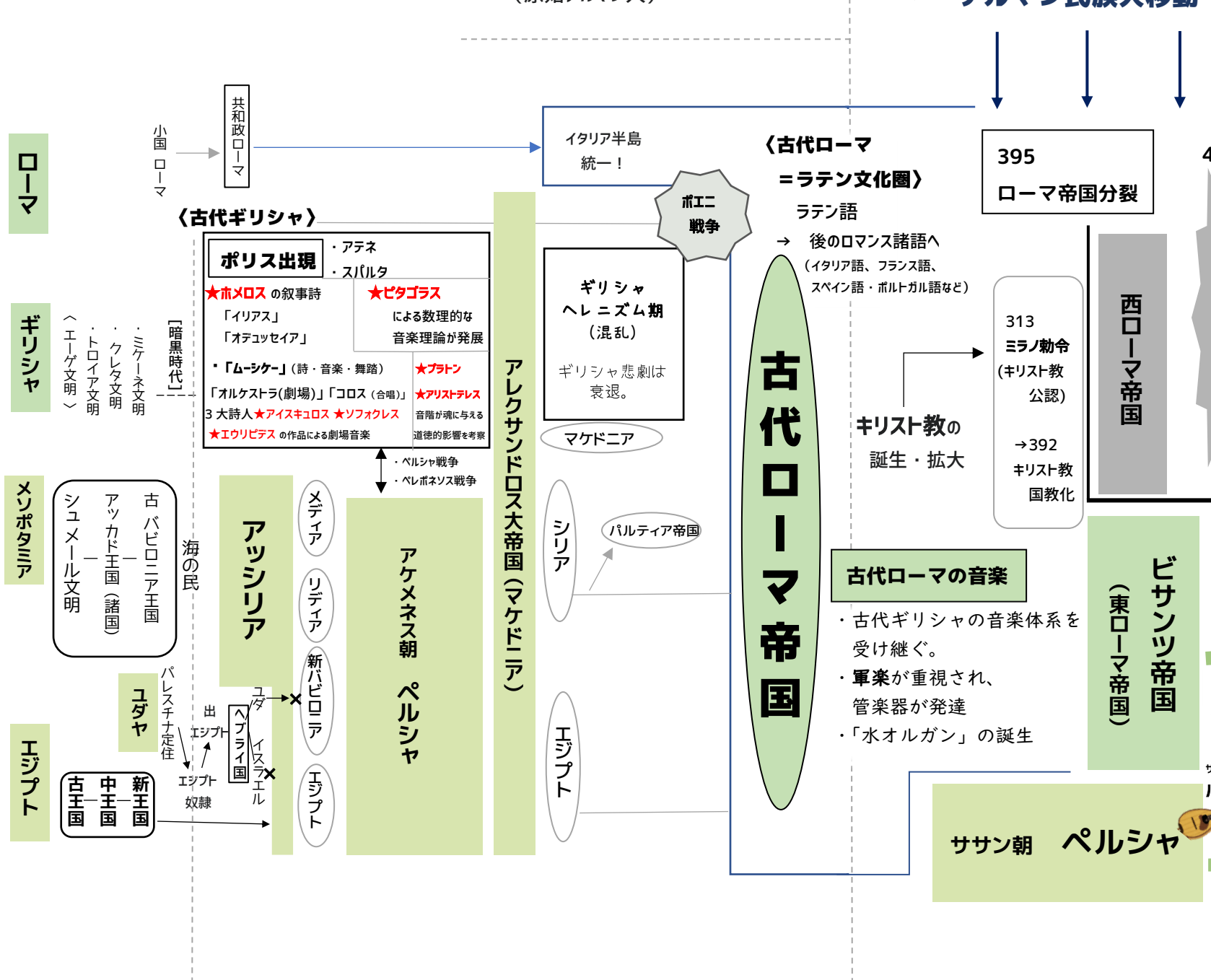


太古から音楽が存在。
・狩りに使う弓→弦楽器
・動物のツノや骨→管楽器
・通信のための石や木片
→打楽器

呪術や宗教（雨乞い、弔い）
労働促進（田植えや舟漕ぎ）
求愛などの機能が
あったとされる

歴史時代

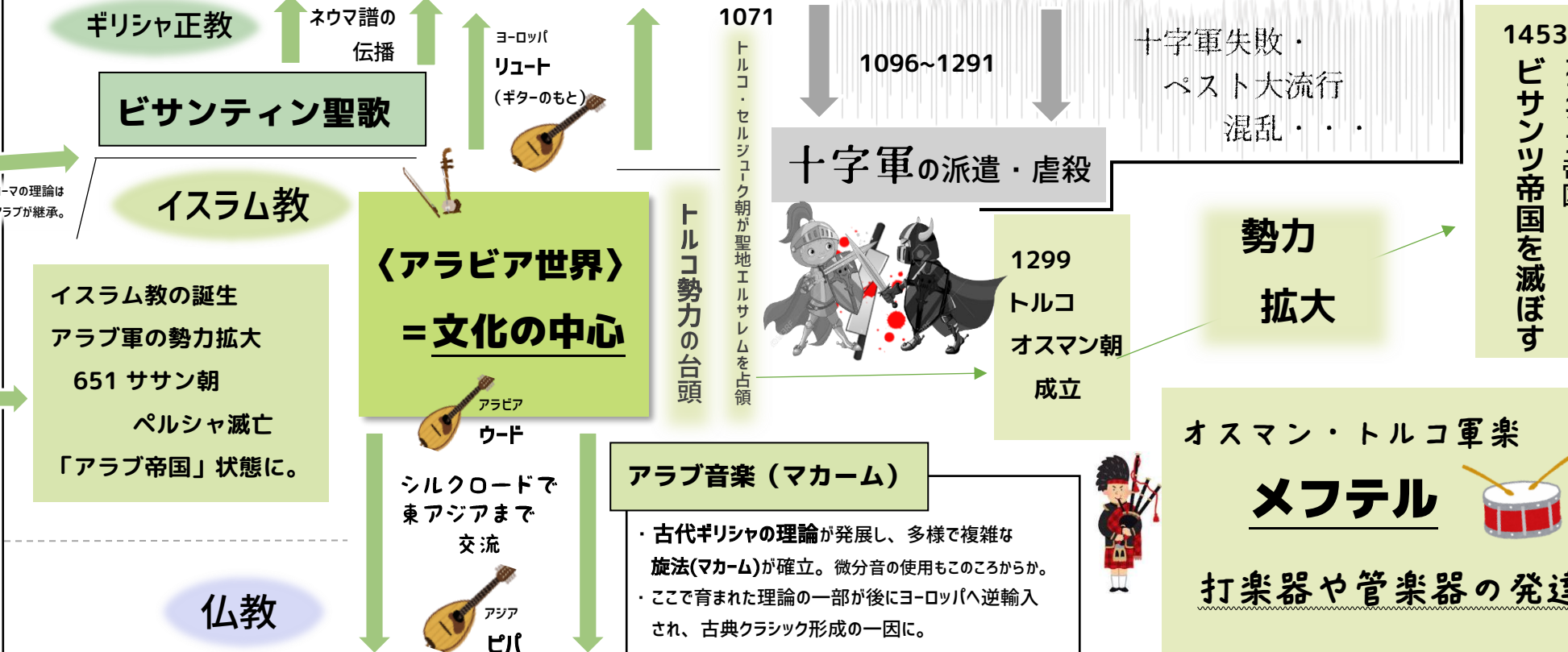
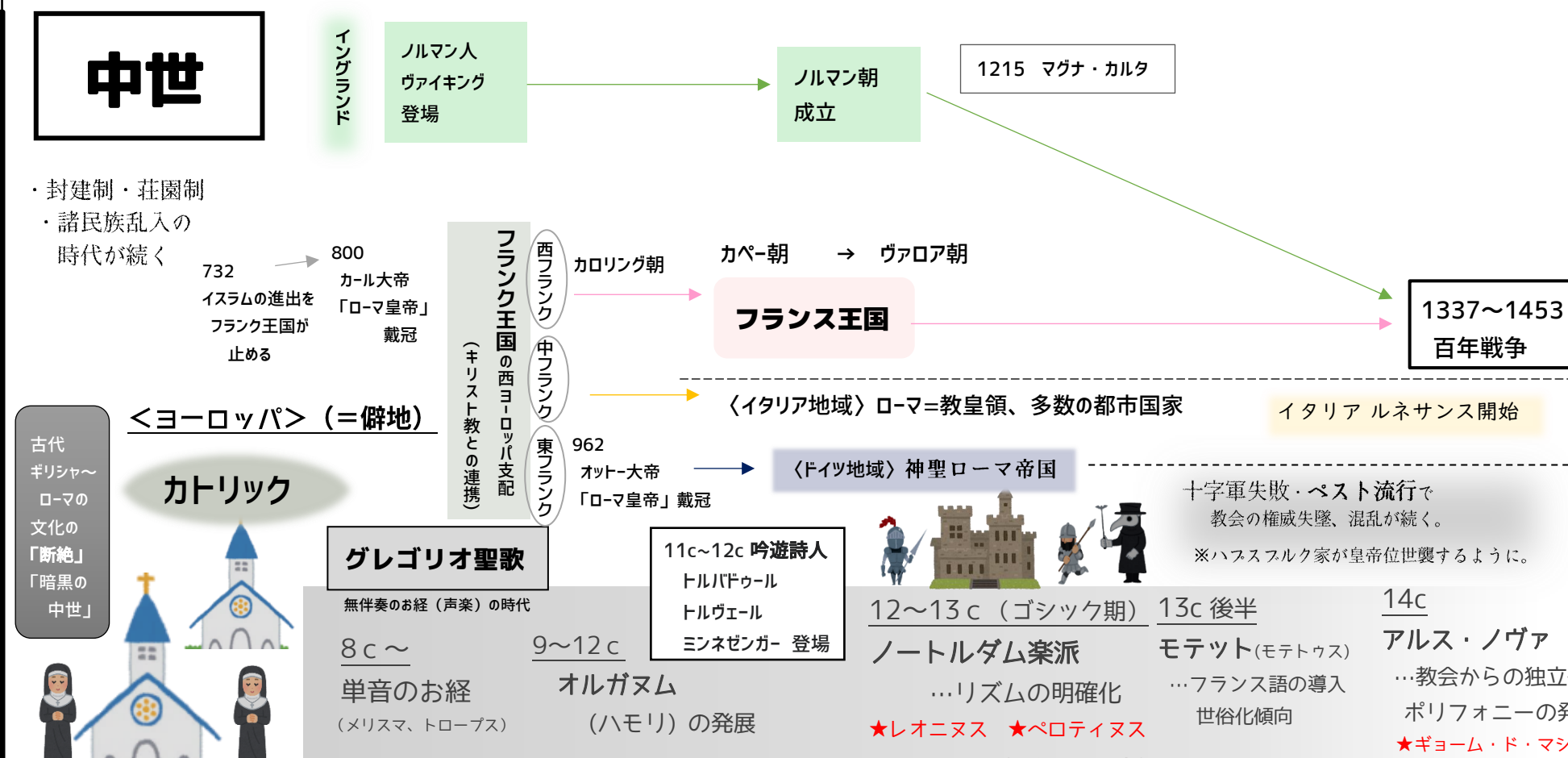
古代



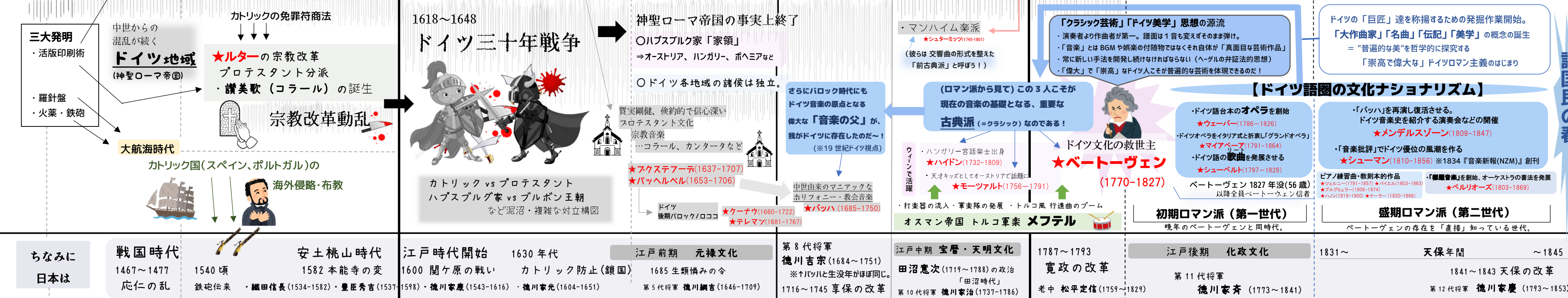
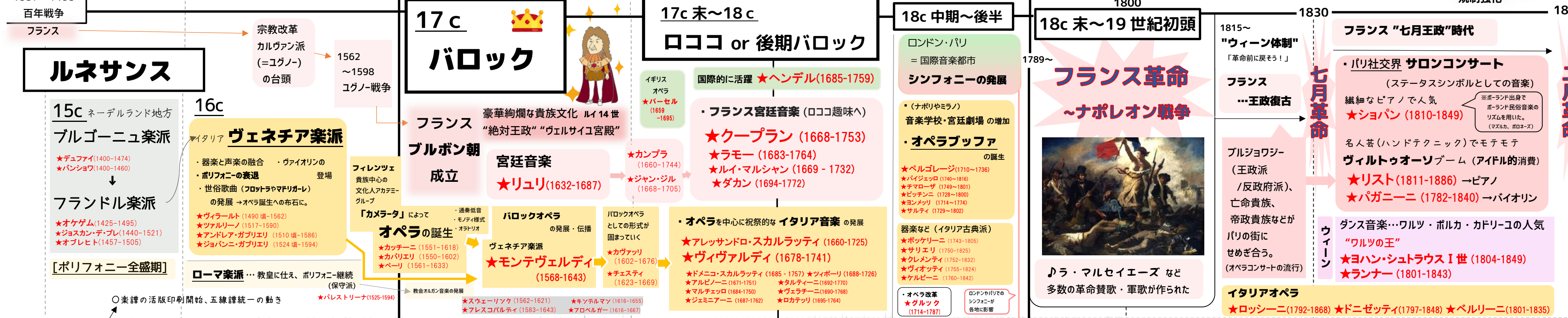
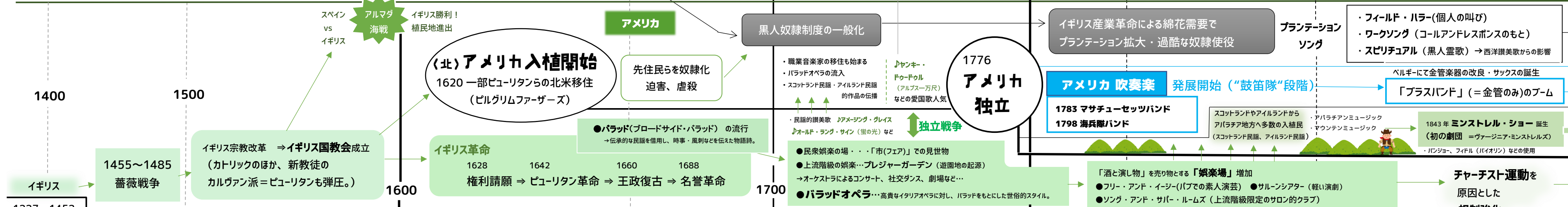
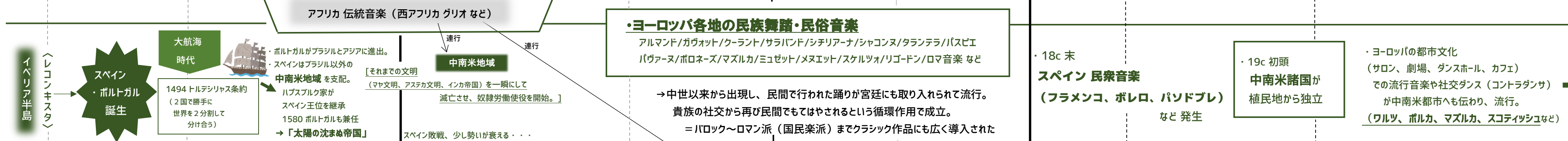
アジア
・インダス文明
・中国文明（黄河文明・長江文明）

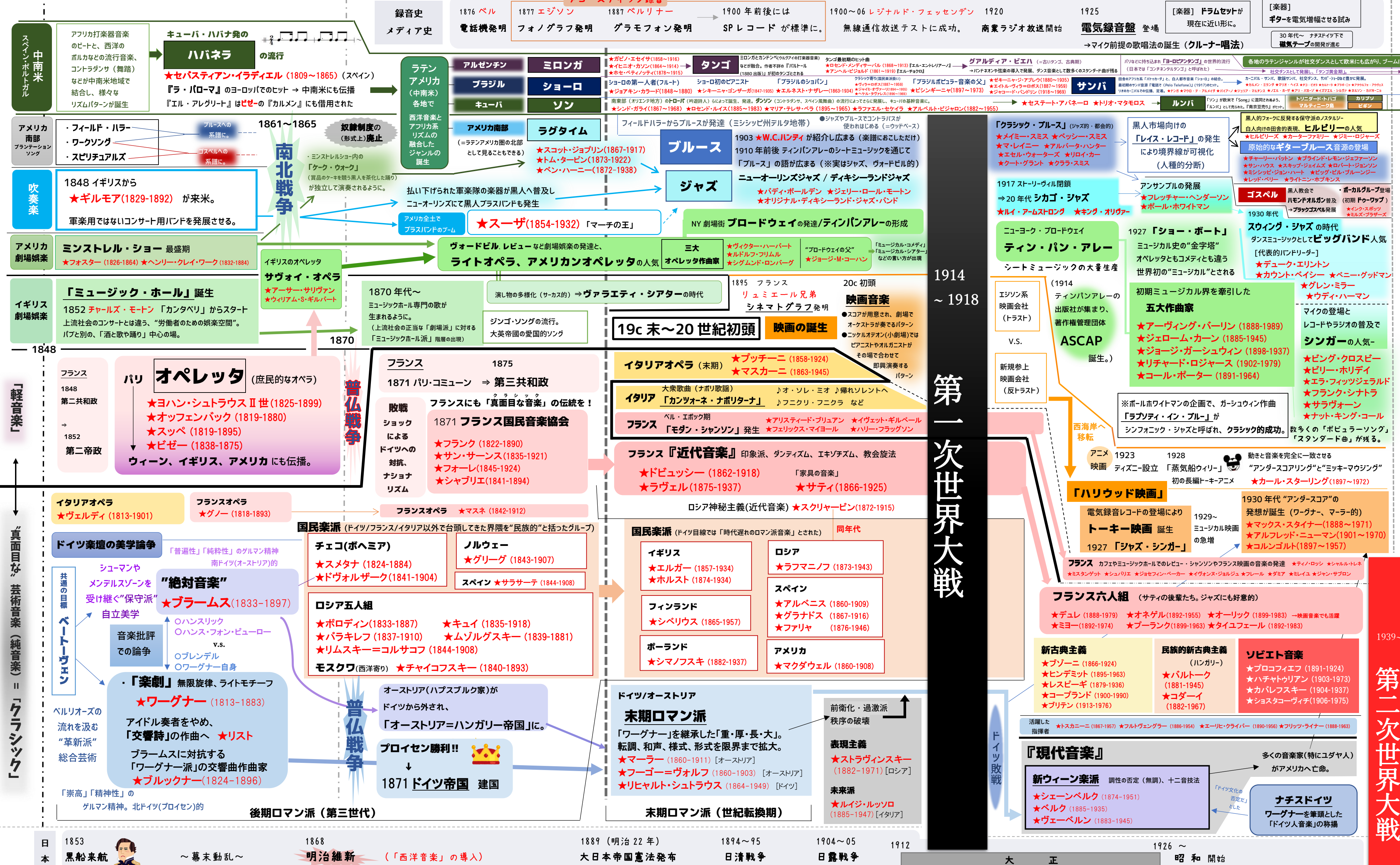
ちなみに日本は

原始～旧石器時代	約1万6500年前～縄文時代	B.C. 10c～弥生時代	3c～古墳時代（ヤマト王権）
----------	----------------	---------------	----------------



6c~7c 飛鳥時代 (大和朝廷) 645 大化の改新	8c 奈良時代 日本・唐 琵琶	9~12c 平安時代	13~14c 鎌倉時代	14c~ 室町時代
-----------------------------	-----------------	------------	-------------	-----------





「軽音楽」
「真面目な芸術音楽(純音楽)」
「クラシック」

第一次世界大戦

第二次世界大戦

1939 ASCAP 1941 著作権使用料 全米のラジオ局が大幅引き上げ ASCAPの契約を更新せず、BMIの楽曲の使用にシフト。

終戦後、連合国側に**磁気録音技術**が流れ込む。

1948 LPレコード発売 1949 EPレコード発売 =ビニル盤(ヴァイナル)

ステレオ規格など 周辺技術の開発が進む テープが徐々に普及していき 長時間録音・編集が可能に 混在期へ。

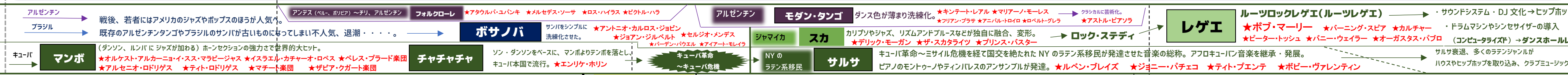
1957 **ステレオレコード発売** しばらくモノラルとの混在期へ。

[楽器]エレビの普及 1954 **ウリッツァー** 1959 **フェンダー・ローズ** 発売

60年代半ば〜 [楽器]クワイネット登場 → **スティビー・ワンダー** **MTR(マルチトラックレコーダー)** オープンリール式4トラックの機種が登場。録音物が「記録」から「作品」化。 **フィル・スペクター**によるオーバーダビング、テープスライス、逆回転など

モトロン登場 → **ビートルズ**、**キングクリムゾン** **モジュラシンセ**、**モーグンセンサイザー**開発 ●Fuzz など歪み系エフェクターの開発

1970年代〜 MTRは24トラックが主流に。モーグンセンが一般に認知されるようになる。ポリアオニックシンセの開発が進む(オーバーハイムなど)。半導体技術の進歩に伴い、**デジタル制御**との融合、**シーケンサー**の発達。



ロック

音楽産業の再編成(ASCAPとBMIの対立)でヒルビリーなどのローカル音楽が放送されるに当たり差別用語の「ヒルビリー」に代わって「カントリーミュージック」の語が普及。南部白人の保守層の支持。★ロイ・エイコフ ★ハンク・ウィリアムズ ★フレッド・ローズ ★キティ・ウェルズ ★アーネスト・タブ

ブルースの誕生。★アル・スクラッグス ★ビル・モンロー ★スタンレー・フレーザー ★ジム・ジョー

ブルース・ルーツ。★ビリー・ヘイリー ★エルヴィス・プレスリー ★パディ・ホリー ★カール・パーキンス ★ジェリー・リール ★ジョニー・ウィンセント ★エドウィー・ディケーター ★ジョニー・キャッシュ ★ロイ・オービソン

ロックンロールブーム (1950年代後半) ラジオDJアラン・フリードが「ロックンロール」と呼んで紹介し、若者に広めた。カントリー歌手のブルスカパー、ブルース歌手のカントリーカパーなど、互いのスタイルの結合へ。

サイケデリック・ロック カウンターカルチャー、ヒッピームーブメント。★ビートルズ ★ピーチ・ボーズ ★グレートフル・ディーズ ★ジミ・ヘンドリクス ★ドアーズ ★ジェファソン・エアプレイン ★ジャニス・ジョプリン ★ヴェルベツ・アンダーグラウンド ★ソフト・マシーン ★フランク・ザッパ

ハードロック イギリス ★ディープ・パープル ★レッド・ツェッペリン ★クリーム ★エリック・クラプトン ★ジェフ・ベック ★グラッド・フランク・レイノールド アメリカ ★キックス ★エアロスミス ★モントローズ

ヘヴィメタル ★ブラック・サバス ★ジューダス・プリースト ★スコーピオンズ ★AC/DC ★アクセプト ★モーターヘッド

パンクロック フロート 原始パンク ★MCS ★ニュー・ヨーク・ドールズ ★ストゥー・ジョーズ NY ICING ★ラモンズ ★デレヴィジョン ★ロンディ ★パンチ・スミス ★リチャード・ハル ★ロッキー・ミュージック(アフロ・ソニー) ★バズ・コックス ★セックス・ピストルズ

ポストパンク/ニューウェイヴ ★パブリック・イメージ・リミテッド ★ザ・ポツ・グループ ★トニー・キング・ヘッズ ★ジョー・ディヴィジョン ★ニュー・オーダー ★XTC ★スライム・グランド ★ダイアー・ストレイツ ★ボリス

ハードコア・ロック ★ボブ・ディラン ★ブルース・スプリングスティーン ★ニルヴァーナ ★グリン・スチアーズ ★スニャー・ドッグ ★ラウド・マッド

アメリカン・プログ・ハード ★スリム・ディンクル ★スティーブ・ニクス ★フォーリー・スター ★REG スピッドワゴン ★TOTO ★クラック・ザ・スカイ

ジャズロック/ブラズロック ★ジャクソン・ブラウン ★カリー・サイモン ★エルトン・ジョン ★ヴァン・モリソン ★ロバート・ディロン ★エリック・クラプトン ★ランディ・ニューマン ★ボニー・タイラー ★トム・ウェイツ ★キャット・スティーヴンス ★リンダ・ロンシュタット ★ドン・マクリン ★ジョン・デンバー ★ニール・ダイアモンド

AOR (AOR) ★AC(アルバム・コンサート) ★ボズ・スキャッグス ★フリオ・ワット・マック

ソウル

1959 モータウン・レコード設立 (ペリ・ゴティエ・Jr.)

モータウンのさなるヒット。★スティビー・ワンダー ★ジャクソン5 ★マーヴィン・ゲイ ★コモドアーズ ★ダニー・ハサウェイ ★ダイアナ・ロス ★カーティス・メイフィールド ★マリナ・シヨウ ★アル・グリーン ★アイザック・ヘイズ ★ジョニー・テイラー ★ザ・ステイブル・ソングス ★ボビー・ウーマック

ニューソウル/ファンク。★スライム・ファミリー・ストーン ★Pファンク (パームメント/ファンカデリック) ★ニューソウル ★ジャズ・ブラウン ★スライム・ファミリー・ストーン ★Pファンク (パームメント/ファンカデリック)

モードジャズ。コードからモードへ推し進めた牽引者。★マイルス・デイヴィス(Tp) ★ジョン・コルトレーン(T.Sax) ★ホレス・シルヴァー(Pf) ★クリフォード・ブラウン(Tp) ★ポール・チェンバース(Ba) ★エルヴィン・ジョーンズ(Dr) ★ジャッキー・マクリーン(Sax) ★ソニー・ステイット(Sax) ★ハンク・ジョーンズ(Pf) ★ケニー・ドリュー(Pf) ★デクスター・ゴードン(T.Sax) ★レッド・ガーランド(Pf) ★トミー・フラナガン(Pf) ★アーマッド・ジャマル(Pf) ★ソニー・クラーク(Pf) ★モダン・ジャズ・カルテット(MQ)

ハードバップ。★マイルス・デイヴィス(Tp) ★アート・ブレイキー(Dr) ★ジョン・コルトレーン(T.Sax) ★ソニー・ロリンズ(T.Sax) ★ホレス・シルヴァー(Pf) ★チャールズ・ミンガス(Ba) ★クリフォード・ブラウン(Tp) ★マックス・ローチ(Dr) ★ポール・チェンバース(Ba) ★エルヴィン・ジョーンズ(Dr) ★ジャッキー・マクリーン(Sax) ★ソニー・ステイット(Sax) ★ハンク・ジョーンズ(Pf) ★ケニー・ドリュー(Pf) ★デクスター・ゴードン(T.Sax) ★レッド・ガーランド(Pf) ★トミー・フラナガン(Pf) ★アーマッド・ジャマル(Pf) ★ソニー・クラーク(Pf) ★モダン・ジャズ・カルテット(MQ)

ウエストコーストジャズ。★チェット・ベイカー(Tp/Vo) ★デイヴ・ブルーベック(Pf) ★アート・ペッパー(Sax) ★ポール・デズモンド(Sax) ★シェリー・マン(Dr) ★ジェリー・マリガン(B.Sax)

フリージャズ。★オーネット・コールマン(Sax) ★チャーリー・ヘイデン(Ba) ★ドン・チェリー(Tp) ★ローランド・カーク(唄る) ★アルバート・アイラー(Sax) ★セルシ・テイラー(Pf) ★ステイプ・レイシー(Sax) ★ファラオ・サンダース(Sax) ★サン・ラ(宇宙思想)

ポスト・バップ(新主流派)。★ハービー・ハンコック(Pf) ★ウエイン・ショーター(Sax) ★フレディ・ハバード(Tp) ★トニー・ウィリアムズ(Dr) ★マッコイ・タイナー(Pf) ★ロン・カーター(Ba) ★ジョー・ハンダーソン(T.Sax)

ファンキージャズ。★ホレス・シルヴァー(Pf) ★ハンク・モブレー(T.Sax) ★カーティス・フラー(Tb) ★リリー・モーガン(Tp) ★キャノンボール・アダレイ(Sax) ★ナット・アダレイ(Cor) ★ケニー・ドーム・ハム(Tp) ★ボビー・ティモンズ(Pf) ★ジミー・スミス(Org) ★ケニー・バレル(Gt) ★ジョー・ザビナル(Pf)

映画音楽

ASCAPの問題などにより、ティンパノアはポップのメインストリームからは退潮へ。ミュージカルは独自に発達。★オスカー・ハマースタイン ★リチャード・ロジャース ★レナード・バーンスタイン ★フレデリック・ロウ

●ディズニー『白雪姫(1937)』『ピノキオ(1940)』『ファンタジア(1940)』 → 『シンデレラ(1950)』『不思議の国のアリス(1951)』『ピーター・パン(1953)』『眠れる森の美女(1959)』など → 実写『メリー・ポピンズ(1964)』★シャーマン兄弟 → 1966ウォルト・ディズニー死去

●ポップス 数々の映画主題歌が「スタンダード曲」に★ヴィクター・ヤング

●劇伴 ★ヒューゴー・フリードホーファー ★アレックス・ノース ★バーナード・ハマーン ★デイヴィッド・ラクスン ★フランツ・ワクスマン ★ミックス・ローザ ★ニーノ・ロータ

フランス映画 ★オーリック 『赤い嵐(1952)』『ローマの休日(1953)』『悲しみよこんにちは(1958)』 ★ジョセフ・コズマ 『夜の門』の主題歌『結末』がスタンダード曲に → ヴィン・モンタン

●ミュージカル映画のピーク 『巴里のアメリカ人(1951)』『雨に唄えば(1952)』『バンド・ワゴン(1953)』

テレビの普及とLPレコード人気により、ハリウッドは凋落。『暴力教室(1955)』 → ロックンロール人気へ

劇伴にポップサウンドを導入・音楽ジャンルを越えた試み ★ヘンリー・マンシーニ 『ティファニーで朝食を(1961)』『酒とバラの日々(1962)』 ★ジョン・シフリン 『ス・イ・ス・イ・ス』(1966) 『ロウ・シフリン』 ★クインシー・ジョーンズ ★ニール・ハフティ ★ジェリー・フィールドینگ

●モダンビッグバンド(ジャズオーケストラ) ★サド・ジョーンズ & メル・ルイス・ジャズ・オーケストラ(サド・メル)

●ロックミュージカルの登場 『ヘア(1968)』 『ジ・ガス・クライスト・スーパースター(1971)』など

●モダンビッグバンド(ジャズオーケストラ) ★サド・ジョーンズ & メル・ルイス・ジャズ・オーケストラ(サド・メル)

●ロックミュージカルの登場 『ヘア(1968)』 『ジ・ガス・クライスト・スーパースター(1971)』など

●モダンビッグバンド(ジャズオーケストラ) ★サド・ジョーンズ & メル・ルイス・ジャズ・オーケストラ(サド・メル)

●ロックミュージカルの登場 『ヘア(1968)』 『ジ・ガス・クライスト・スーパースター(1971)』など

第二次世界大戦

1939 ~ 1945 旧来「クラシック」の演奏実践・保存・啓蒙 ●指揮者 ★カラヤン(1908-1989) ★レナード・バーンスタイン(1918-1990) → ムジカルの作曲でも活躍 ●演奏家 ★ゲオルク・ショルティ(1912-1997) ★ルービンシュタイン(1887-1982) ★ヤジャ・ハイフェッツ(1901-1987) ★パブロ・カザルス(1876-1973) ★グレン・グールド(1932-1982) ★マルタ・アルゲリッチ(1941-) ★マウリツィオ・ポリーニ(1942-)

1950 『現代音楽』(=クラシックの流れを持つ20世紀の前衛・実験音楽のこと)

●指揮者 ★カラヤン(1908-1989) ★レナード・バーンスタイン(1918-1990) → ムジカルの作曲でも活躍 ●演奏家 ★ゲオルク・ショルティ(1912-1997) ★ルービンシュタイン(1887-1982) ★ヤジャ・ハイフェッツ(1901-1987) ★パブロ・カザルス(1876-1973) ★グレン・グールド(1932-1982) ★マルタ・アルゲリッチ(1941-) ★マウリツィオ・ポリーニ(1942-)

●トータル・セリエリズム(総音列主義) ★ブルーース(1925-2016) ★ルイジ・ノーノ(1924-1990) ★シュクハウゼン(1928-2007)

●偶然性の音楽 ★ジョン・ケージ(1912-1992)

●ミニマルミュージック(推計音楽) ★クセナキス(1922-2001)

●ミュージック・コンクレート ★ピエール・シェフェール(1910-1995) ★ピエール・アンリ(1927-2017)

●60年代後半〜 新規性の追求大喜利の行き詰まり → ミニマルミュージック ★テリー・ライリー(1935-) ★ステイプ・ライヒ(1936-) ★フィリップ・グラス(1937-) ★アルヴォ・PART(1935-) ★マサカケイ(1944-)

●「サウンド・スケープ」の提唱 ★マリ・シェファー(1933-)

●アンビエント音楽 ★ブライアン・イーノ(1948-)

●ロックやテクノへ継承

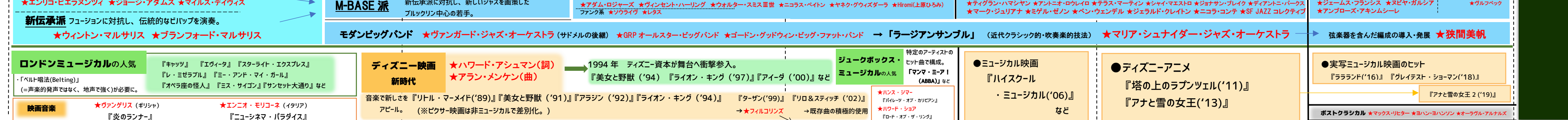
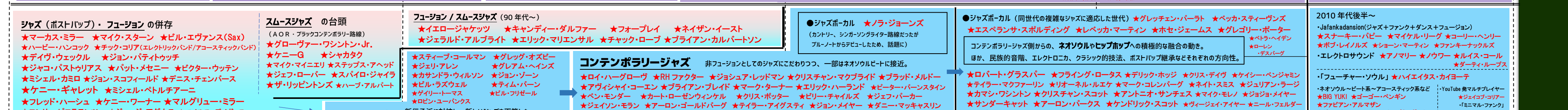
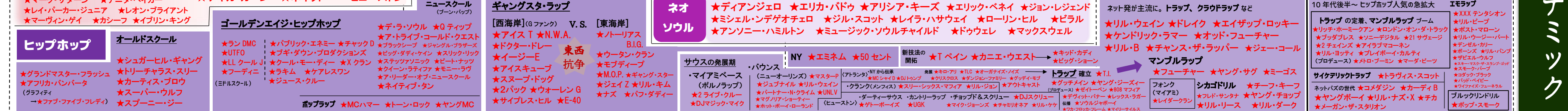
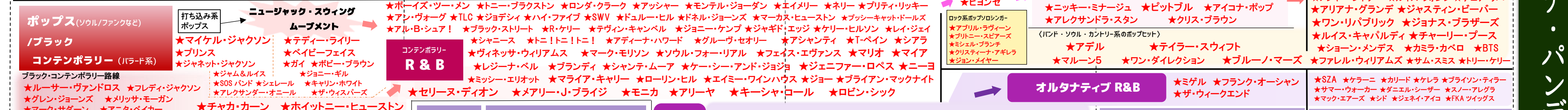
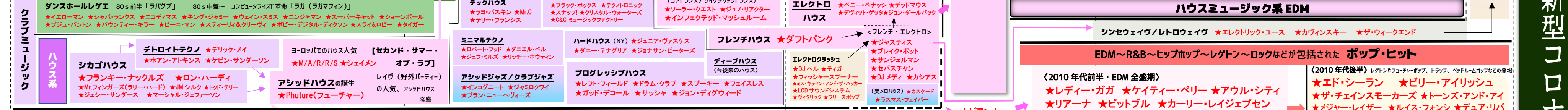
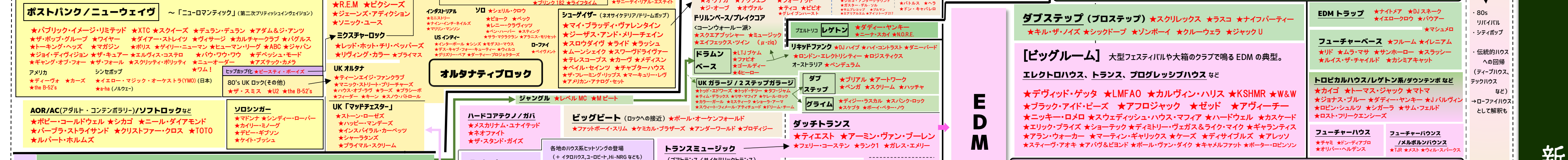
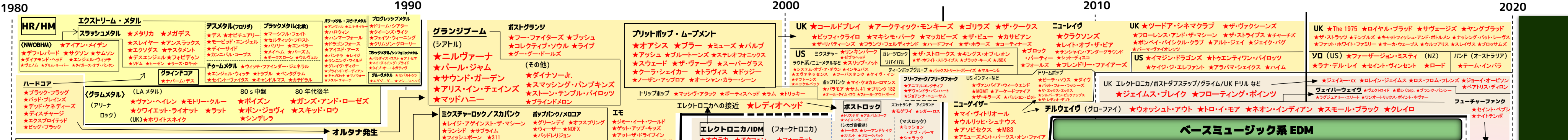
●ジャズ風クラシック曲(リ連・ウクライナ) ★カプースチン(1937-2020)

●ハリウッド流シンフォニックスコアの復権 ★ジョン・ウィリアムズ 19世紀末のクラシックの手法を生かした作風。『ジョーズ(75)』『未知との遭遇(77)』『スターウォーズ(77)』『E.T.(82)』など

●イージーリスニングブーム ★ポール・モーリア ★レイモン・ムルフェブル ★フランク・パウセル

●その他:『アニー(1977)』 『トゥモロー』が有名に

1980年前後 数多くの有名リズムマシンの発売 (TR-808, 909, 707, Linn Drum など) → 規則的なビートの誕生。
1981 MTV 開始。MVの重要性上昇 ●PCMシンセ の登場、普及 → 各種鍵盤楽器の機構上の違いがなくなる
1982 MIDI規格の制定 1983 ヤマハ デジタルシンセ 1986 (キーボード、エレベ、シンセなど) (キーボード、エレベ、シンセなど)
楽器間の演奏情報のやりとりが可能に。 ●DX-7 発売 ●DAT (Digital Audio Tape)規格 がまとまる (→ デジタル MTR = 磁気テープにデジタル録音)
MIDIシーケンサーが普及 FM音源方式の普及 (→ デジタル MTR = 磁気テープにデジタル録音)
1982 CDの登場 → 1986 CDの販売数がLPレコードを追い抜く 1988~ AKAI MPC シリーズ 登場
1991 GM規格 の制定。 ●mp3圧縮の開発 → 解像度を下げる方向への進化(進化)の発生 ●iTunes, iPodの登場
00年代〜 デジタルの0dBFSに迫る「音圧戦争」のキチンと化。 2005 YouTube 設立
1991 ProTools 発売。 1992 waves audio 設立 Q10(EQ)発売 1997ビュ補正ソフト AutoTune 発売 → クレロロロの発生
ハードディスクレコーディングの時代へ 1994 L1マキシマイザ 発売 2001 iZotope 設立 Ozone 発売
2007~ Soundcloud サービス開始
2010年代〜 ストリーミングサービスの普及 Apple Music, Spotify など (→ ラウドネスノーマライゼーション)
サービス開始
TikTok (国際版) サービス開始



参考文献

※文献に載っているすべての内容がそのまま図表に反映されている訳ではありません。

●クラシック音楽史（従来の通史）

岡田暁生『西洋音楽史 ―「クラシック」の黄昏』中公新書, 2005
石丸由理『ともだち音楽史』ドレミ楽譜出版社, 2014
北村英明『いちばんやさしい音楽史』メトロポリタンプレス, 2012
千蔵八郎『音楽史 ―作曲家とその作品』教育芸術社, 1983
久保田慶一 編著『音楽史を学ぶ ―古代ギリシャから現代まで』教育芸術社, 2017
久保田慶一 ほか『はじめての音楽史 増補改訂版 ―古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』音楽之友社 , 2009
柴田南雄『音楽史と音楽論』岩波書店, 2014
上尾信也『音楽のヨーロッパ史』講談社現代新書, 2000
加羽沢美濃『ゼロから始めるクラシック入門』メディアファクトリー, 2014
久保田慶一『西洋音楽史 100 エピソード』教育芸術社, 2012
木石岳 編著『はじめての〈脱〉音楽 ― やさしい現代音楽の作曲法』自由現代社, 2018

●クラシック音楽史（検討・批判・別視点）

岡田暁生『「クラシック音楽」はいつ終わったのか？ ―音楽史における第一次世界大戦の前後』人文書院, 2010
吉成順『〈クラシック〉と〈ポピュラー〉 ―公開演奏会と近代音楽文化の成立』アルテスパブリッシング, 2014
樋口裕一『音楽で人は輝く ―愛と対立のクラシック』集英社新書, 2011
原博『無視された聴衆 ―現代音楽の命運』アートユニオン, 1996
上田泰史『パリのサロンと音楽家たち ―19世紀社交界への誘い』カワイ出版, 2018
福田公子『19世紀パリのサロン・コンサート ―音楽のある社交空間のエレガンス』北星社, 2013
宮本直美『コンサートという文化装置 ―交響曲とオペラのヨーロッパ近代』岩波現代新書, 2016
渡辺裕『聴衆の誕生 ―ポスト・モダン時代の音楽文化』春秋社, 1989
石井宏『反音楽史 ―さらば、ベートーヴェン』新潮社, 2004
かげはら史帆『ベートーヴェン捏造 ―名プロデューサーは嘘をつく』柏書房, 2018
吉田寛『〈音楽の国ドイツ〉の神話とその起源 ― ルネサンスから十八世紀（〈音楽の国ドイツ〉の系譜学 1）』青弓社, 2013
吉田寛『民謡の発見と〈ドイツ〉の変貌 ― 十八世紀（〈音楽の国ドイツ〉の系譜学 2）』青弓社, 2013
吉田寛『絶対音楽の美学と分裂する〈ドイツ〉 ― 十九世紀（〈音楽の国ドイツ〉の系譜学 3）』青弓社, 2015
柿沼敏江『〈無調〉の誕生 ―ドミナントなき時代の音楽のゆくえ』音楽之友社, 2020
ジャン・コクトー『雄鶏とアルカカン ― ジャン・コクトーの音楽小論』池谷竜 訳 , MyISBN, 2019

●吹奏楽、劇場音楽、映画音楽など

秋山紀夫『吹奏楽の歴史 ―学問として吹奏楽を知るために』ミュージックエイト, 2013
中野京子『おとなのための「オペラ」入門』講談社α文庫, 2009
岡田暁生『オペラの運命 ―十九世紀を魅了した「一夜の夢」』中公新書, 2001
井野瀬久美恵『大英帝国はミュージック・ホールから』朝日選書, 1990
斎藤偕子『19世紀アメリカのポピュラー・シアター ―国民的アイデンティティの形成』論創社, 2010
海野弘『酒場の文化史』講談社学術文庫, 2009
小山内伸『ミュージカル史』中央公論新社, 2016
出口丈人『映画映像史 ―ムーヴィング・イメージの軌跡』小学館, 2004
北野圭介『新版 ハリウッド 100 年史講義 ―夢の工場から夢の王国へ』平凡社新書, 2017
宮本啓『映画音楽への招待』丸善ライブラリー, 1994
柳生すみまる『映画音楽 ―その歴史と作曲家』芳賀書店, 1985
谷口章弘『ディズニー・ミュージック ― ディズニー映画 音楽の秘密』スタイルノート, 2016
高岡智子『亡命ユダヤ人の映画音楽 ― 20世紀ドイツ音楽からハリウッド、東ドイツへの軌跡』ナカニシヤ出版, 2014

●ポピュラー音楽史（主にアメリカ音楽史概略〜ロック史）

奥田恵二『「アメリカ音楽」の誕生 ― 社会・文化の変容の中で』河出書房新社, 2005
大和田俊之『アメリカ音楽史 ―ミンストレル・ショウ、ブルースからヒップホップまで』講談社新書メチエ, 2011
山室紘一『世界のポピュラー音楽史 ―アーティストでつづるポピュラー音楽の変遷』ヤマハミュージックメディア, 2012
高増明 編『ポピュラー音楽の社会経済学』ナカニシヤ出版, 2013
鈴木道子『アメリカン・ミュージック・ヒーローズ 改訂版 ―米国ポピュラー音楽の歴史』(株)シヨパン, 2005
當間麗『アメリカン・ルーツ・ミュージックとロックンロール 改訂版』DTP 出版, 2014
當間麗『アメリカン・ポピュラー・ミュージック 改訂版』DTP 出版, 2014
みの『戦いの音楽史』KADOKAWA, 2021
柴田修平 編『CD ジャーナルムック MTV ロック検定 公式テキストブック』(株)音楽出版社, 2007
ロック・クラシック研究会 編『ロック・クラシック入門 ― 重要アーティスト&名盤徹底ガイド』
海藤哲 編『ロックの教科書 ―大人のためのロックヒストリー』笠倉出版社, 2015

●ジャズ（従来の通史）

澤田俊佑 監修『面白いほどよくわかる ジャズのすべて ―学校で教えない教科書』日本文芸社, 2007
南武成『Jazz It Up! マンガまるごとジャズ 100 年史』講談社, 2008
菊池成孔+大谷能生『東京大学のアルバート・アイラー ― 東大ジャズ講義録・歴史編』メディア総合研究所, 2005
菊池成孔+大谷能生『東京大学のアルバート・アイラー ― 東大ジャズ講義録・キーワード編』メディア総合研究所, 2006

●ジャズ（フュージョン〜コンテンポラリージャズ）

笹川孝司 編『フュージョン』シンコーミュージック, 2014
柳楽光隆 監修『Jazz The New Chapter ―ロバート・グラスパーから広がる現代ジャズの地平』シンコーミュージック, 2014
柳楽光隆 監修『Jazz The New Chapter2』シンコーミュージック, 2014
柳楽光隆 監修『Jazz The New Chapter3』シンコーミュージック, 2015
柳楽光隆 監修『Jazz The New Chapter4』シンコーミュージック, 2017
柳楽光隆 監修『Jazz The New Chapter5』シンコーミュージック, 2018
柳楽光隆 監修『Jazz The New Chapter6』シンコーミュージック, 2020
常盤武彦『ニューヨーク・ジャズ・アップデート ― 体感する現在進行形ジャズ』小学館, 2018
松坂ゆう子 編『隔月刊ジャズ批評 11 月号(2015) ― 特集「ロバート・グラスパー/ハービー・ハンコック」』ジャズ批評社, 2015

●その他

泉山真奈美 ほか 著, ロック・クラシック研究会 編『ブラック・ミュージック入門』河出書房新社, 2008
世界の音楽編集部 編『音楽がわかる世界地図 ― 今と過去、世界各地の音楽・楽器・ミュージシャンが一冊でわかる!』ロコモーションパブリッシング, 2005
石橋純 編『中南米の音楽 ― 歌・踊り・祝祭を生きる人々』東京堂出版, 2010
ウィリー・マウパー『リアル・ブラジル音楽 ― 1冊でわかるポケット教養シリーズ』ヤマハミュージックメディア, 2015
みつとみ俊郎『音楽ジャンルって何だろう』新潮選書, 1999

ほか、Wikipedia 各項目や、各ネット記事、YouTube の解説動画、世界史の受験用参考書など多数。